

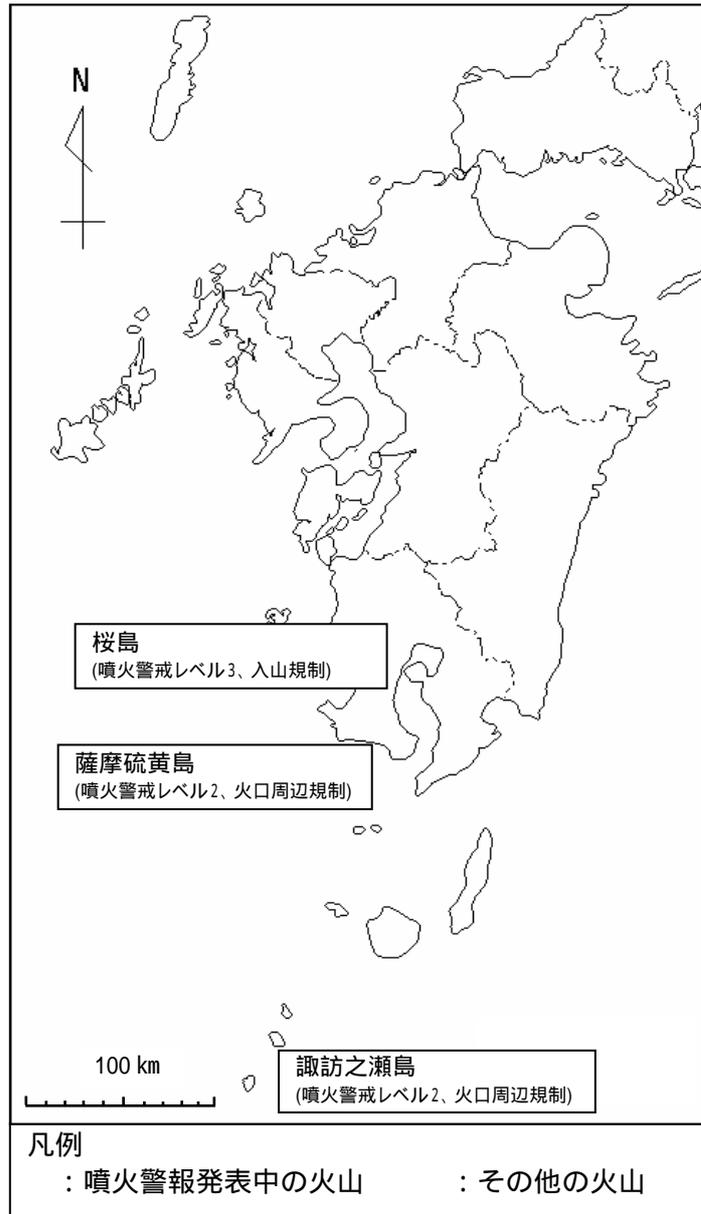
管内月間火山概況及び
雲仙岳の火山活動解説資料
(平成20年4月)

管内月間火山概況 (平成 20 年 4 月)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (4月30日現在)

- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、入山規制) : 桜島
火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制) : 薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常) : 九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (新燃岳)
霧島山 (御鉢) 口永良部島
噴火予報 (平常) : 阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群
米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 20 年 5 月分)は平成 20 年 6 月 6 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」、「数値地図 10mメッシュ(火山標高)」を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)。

各火山の活動状況及び予報警報事項

桜島では、4月8日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを2から3に引き上げました。

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

孤立型微動の発生回数の多い状態が続いていますが、中岳第一火口の状態に特段の変化は認められません。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその付近では火山灰の噴出等に警戒が必要です。また、火口周辺では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳） [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）] 4月8日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制を噴火警戒レベル3、入山規制に引き上げ）を発表

4月8日00時29分に昭和火口で爆発的噴火が発生したことから、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。その後も、断続的に噴火が発生しており、噴火警戒レベル3（入山規制）が継続しています。15日以降は、爆発的噴火の発生はありません。また、火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

南岳山頂火口ではごく小規模な噴火が発生しました。

昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

なお、長期的にみると昭和火口の噴火活動は2006年6月の噴火以降、次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙活動はやや活発で、地震回数はやや多い状態が続いています。硫黄岳火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

16日に御岳火口で爆発的噴火が発生しました。

今後も、御岳（おたけ）火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 4 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2）

噴煙は観測されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の発生は 1 回（3 月：11 回）と少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 1、図 4）

GPS 連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。

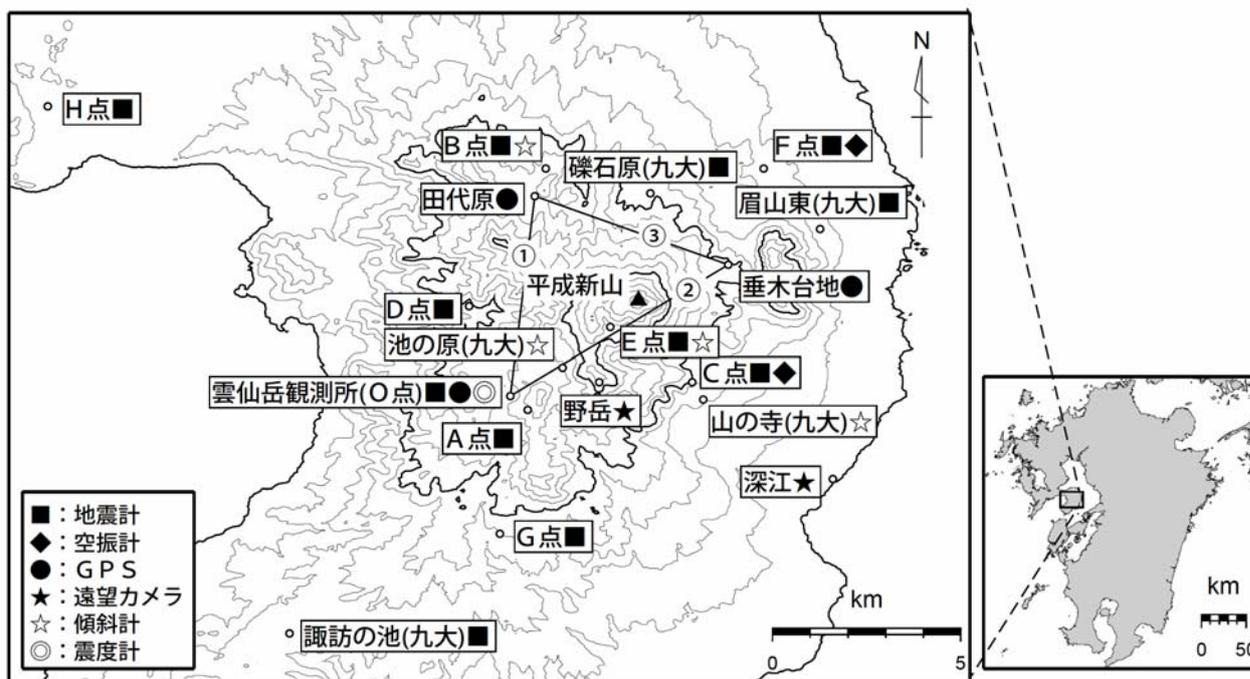


図 1 雲仙岳 観測点配置図

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、九州大学のデータを使用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 20 年 5 月分)は平成 20 年 6 月 6 日に発表予定です。

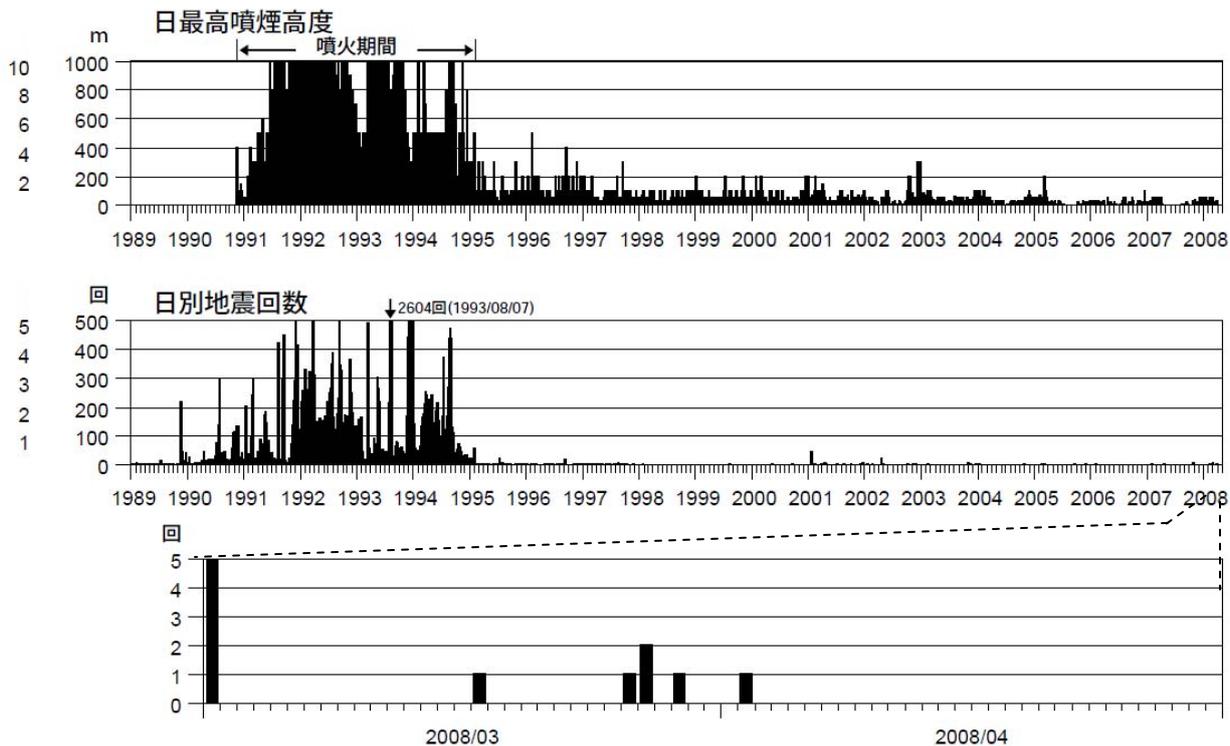


図 2 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月～2008 年 4 月）
噴煙は観測されませんでした（3 月：30m）。

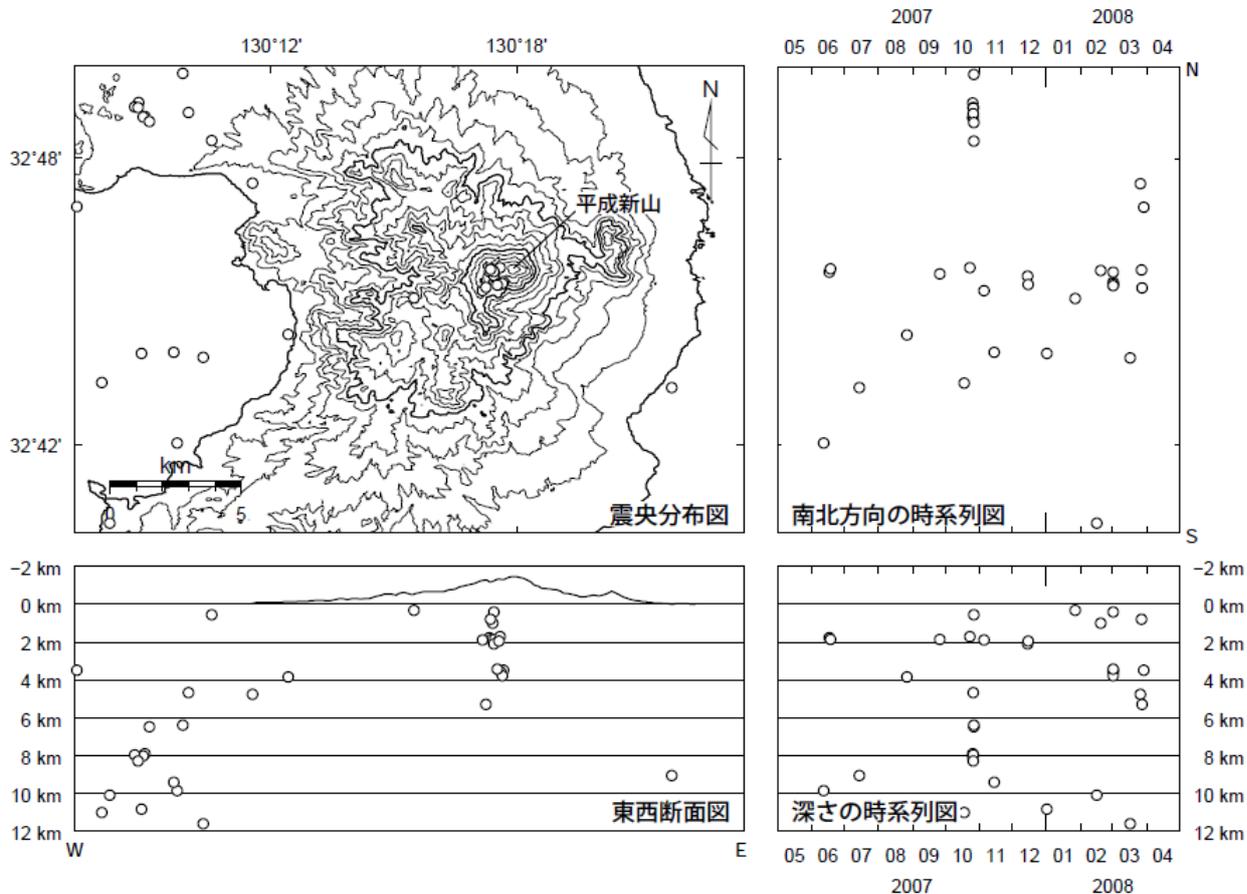


図 3※ 雲仙岳 震源分布図（2007 年 5 月～2008 年 4 月）
震源の求まる地震は発生しませんでした。
○ 2007/05/01～2008/03/31 N=35
● 2008/04/01～2008/04/30 N=0

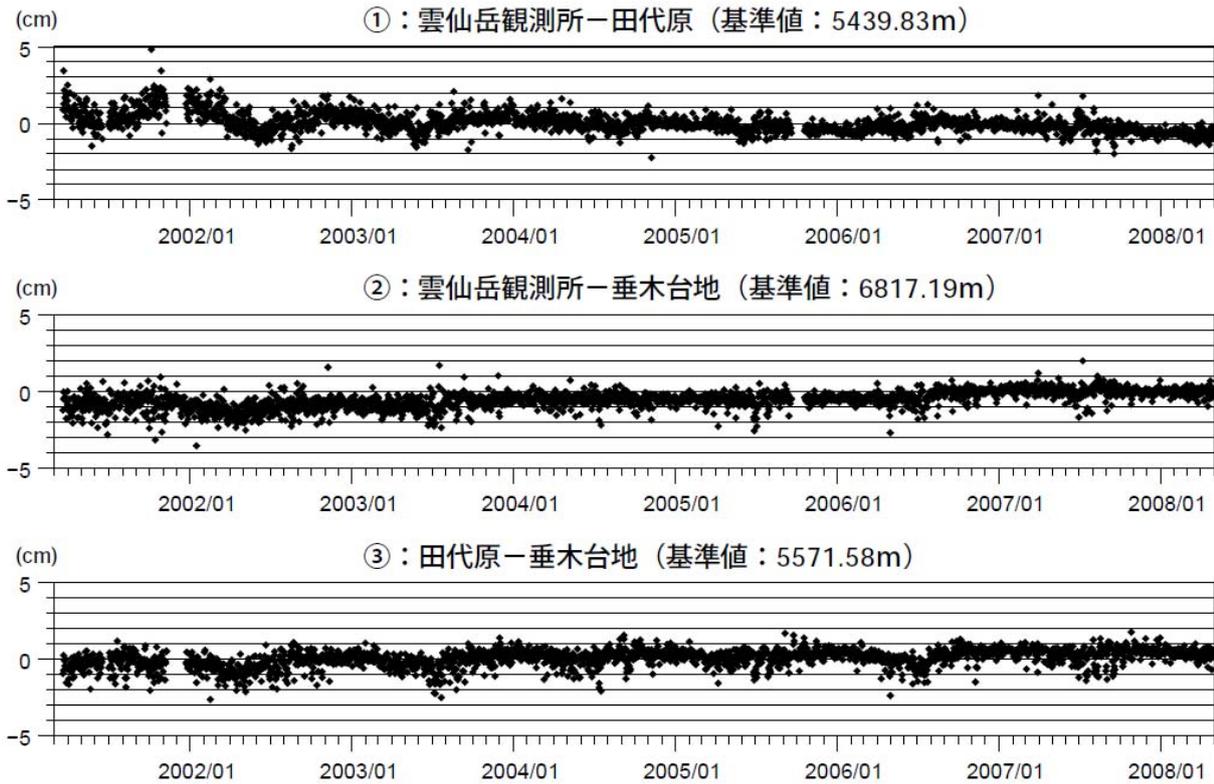


図 4 雲仙岳 GPS 連続観測による基線長変化(2001 年 3 月 20 日~2008 年 4 月 30 日)
火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。